



フォレストウインズ

Forest Winds もりからのかぜ・東北

No.1 1998年11月

農林水産省・森林総合研究所・東北支所

カラマツ茶枯れの原因

カラマツハラアカハバチの大発生



カラマツハラアカハバチの大発生によって褐変したカラマツ林

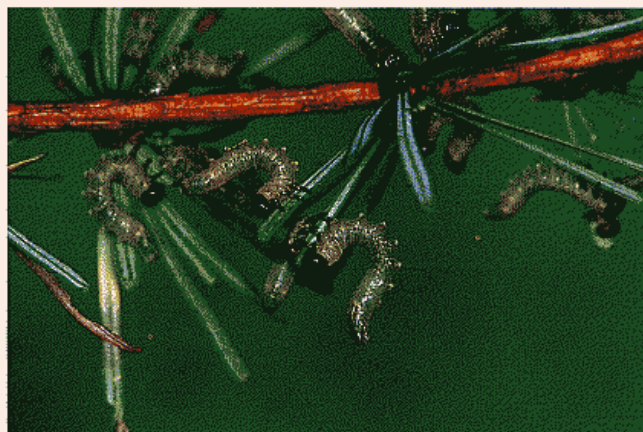
今年もまた、紅葉にはまだ早い8月頃から、カラマツの林全体が褐色になって驚いた方も多
いと思います。これは、カラマツハラアカハバチ（ハチの仲間）という害虫が大発生して葉っ
ぱを食べるために、葉が枯れたりなくなったりしたためです。

東北地方では数年前からこの害虫がカラマツ林に発生し始め、被害面積は年々増加の傾向に
あります。大発生は同じ林では2～4年続きその後次第に終息しますので、あと1～2年は発
生が続くと思われます。過去の記録を見ますと、岩手県では1950年から1952年にかけてと、
1966年に発生記録が残っています。

カラマツハラアカハバチの

生態

親虫は7月上旬に現れ、今年新しく伸びた梢に卵を産みつけます。孵化した幼虫は群になって、枝先から幹へ向かって輪生葉といわれる輪状に生えている葉を好んで食べて行きます。幼虫の頭は黒く体は淡緑色、背中は暗灰緑色をしていて他のハバチと区別できます。葉っぱを食べる幼虫の期間は約1ヶ月で、十分成長すると地面に降りて落葉の中や土の中で繭をつくりその中で幼虫のまま越冬します。翌年6月頃に蛹になり7月上旬に親虫となって再び現れてきます。



群になって食害中のカラマツハラアカハバチの幼虫
尻を上げて警戒のポーズをとっている



幼虫によって食害された枝 輪生葉は全部食べられてしまったが、今年伸張した梢上の針葉は食べられずに残っている

食害を阻害する物質が含まれるため、これらの葉を食べることができないのです。一方、木の成長量は大幅に減少しますので材質への影響が心配されます。また、毎年の食害によってカラマツが衰弱すると、カミキリムシなど弱った木に穿孔する虫の攻撃を受けて枯れることもあり、ハバチの発生中数年間は林の状態に注意を払う必要があります。

カラマツへの

影響

木全体が褐色になってしまうと、枯れてしまうのではないかと心配になりますが、この虫は葉っぱを全部食べてしまうことはないの
で木が枯れることはまずありません。今年新しく伸びた梢の葉（光合成能力が高く、全葉量の約10%になります）には、幼虫の食いつ

制 作：森林総合研究所・東北支所・保護部・昆虫研究室 後藤 忠男
衣浦 晴生

お問い合わせ：森林総合研究所・東北支所 020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷 72

Tel : 019-641-2150 Fax : 019-641-6747